



一人の人から始まる大切さ  
人と人との出会いの場  
ーバザールカフェ活動報告ー

発表者：小島麗華（店長）

狭間明日実（専従スタッフ）



# Bazaar Café

## Bazaar Café

日替わり多国籍料理

ブラジル料理

アレモンデガ

(肉団子のトマトソース)  
500yen

- \* ロコモコ 700yen
- \* 干しエビココナツカレー 650yen
- \* チキンサンド 2枚 550 / 3枚 600yen
- \* BLTEサンド 600yen  
(ポコン・レス・トマト・エッグ)

すべてのメニューにスープが付きます。

Welcome!

入口は  
こちらです





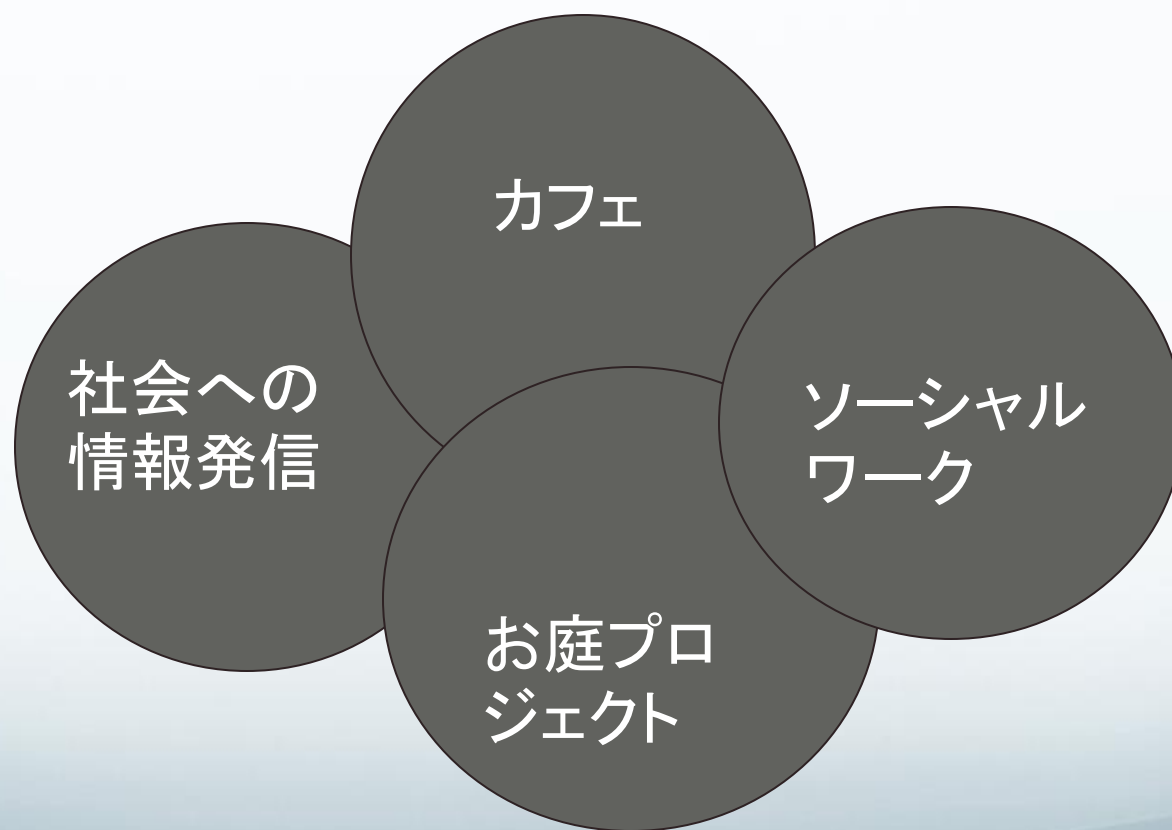
Bazaar Cafe is a  
place where we  
learn to love each other.



## バザールカフェのミッション

- 1) バザールカフェは、国籍、人種、性別、年齢や様々な違いを持った人達が集い、その人がその人らしくいる事が出来る場をみんなで創っていきます。
- 2) バザールカフェは、人と人との出会い、交流を深め、情報を交換し、社会で行われている様々な活動の窓口となり、社会のニーズに応えたサービスを提供していきます。
- 3) バザールカフェは、様々な理由で就労が困難な人々の新たな労働の場として、ともに学び成長していく機会を大切にしていきます。
- 4) バザールカフェは、日本基督教団京都教区とバザールカフェプロジェクト運営委員会との共同プロジェクトです。
- 5) バザールカフェは、建物の持ち主であるアメリカ合同教会の宣教指針を理解し、特にセクシュアリティ、HIV、移民、女性等の社会的課題に協力して取り組んでいます。

# バザールカフェの構成要素



# カフェ

## ◆ 就労の機会の提供

バザールカフェは、滞日外国人の方や様々な理由で、就労につく事が困難な人達が、自分に対する自信を取り戻したり、自分や人を再び信じ生きていく事を感じてもらえる場をみんなで創っています。

### 働いている人たち

滞日外国人（主に女性）

依存症の仲間（京都ダルクと連携した就労支援）

精神や身体の生きづらさを抱えている人

長年ひきこもっていた人（京都府青少年ひきこもり事業職親制度）

など



# ソーシャルワーク

私たちが関わっている人たちの中には、社会制度の狭間にいる人や既存の制度を上手に使うことができない人たちが多くいます。また、社会的にマイノリティー(少数派)とされている人たちが多いです。彼らの困りごとをアセスメント(情報収集)し、支援方法を考えたり、無いものは創るということをしています。

□カウンセリング

□必要な資源、機関へつなぐ

□その人だけでなく、家族への支援

□プログラム開発(後ほど紹介)





## セクシュアルマイノリティの人達とのプログラム

- 1年に数回、セクシュアルマイノリティの方々、家族、友人、支援者が集まり安心して交流できる場の提供
- ケアカフェ、新しい啓発活動の方法で、セクシュアルマイノリティ、HIV、薬物依存症、性産業について様々な立場の人と話し合い考える機会を提供。厚労省の研究費(白阪班、日高班)から助成。毎回20-30名の参加。関西学院大学神学部の学生達も参加同志社大学社会福祉学部野村裕美先生によりこの手法が初めて京都で導入される
- セクシュアルマイノリティの人達が安心して集い自分らしく入れる場を提供“



# 薬物依存症からの回復を願う人たちの居場所の創造

サロン ド バザール  
2015年から開始（毎週）  
関西学院大学先端社会学研究所助成

女性の依存症者の集まり（月1回）やNAミーティングへ  
会場提供



# お庭プロジェクト

京都ダルク(薬物依存症の回復施設)の仲間と、実習生やボランティアが共同でお庭を作っています。草引きから、やさい作り、子どもたちが安全に楽しく遊べるようなトンネルも作りました。収穫された野菜はお料理に使い、冬に取れる夏みかんはマーマレードにしたりデッキの修理も一緒にします。そこに実習生やボランティアが加わり、今まで交わらなかった人たちと汗を流しながらの協働作業で相互に理解し合っていきます。



# 最近のお庭の様子



# 社会への情報発信や 出会いと交流の場



- ✓ 情報配布物
- ✓ フィエスタ  
(始まりは同志社大学プロジェクト科目での実施から)
- ✓ 親子でリトミック (心臓に病気を抱える子どもたちとも)
- ✓ 国際交流
- ✓ HIV陽性者の方々の集まり
- ✓ 結婚式
- ✓ 市民団体との連携  
(健康フェスタやエイズ文化フォーラムへの参加)

# 社会にある課題との出会い

沖縄を知る  
キム キガン氏  
鳥井新平氏  
片岡希望氏

福島原発を考える  
片岡輝美氏  
福島から京都に非難してきた人達



# フィールドワーク



学生たちが社会で起こっている事に出会い、関心を持ち、関わる事を学ぶ機会

机や本で「問題」や「課題」として学ぶだけではなく、一緒に働くことによって、その人と出会い、その人の抱える生きづらさを知り、そこで留まり時間を共有し、共に悩んだり話しをしたりすることで人が変化していくことを感じます。また、学生自身も変化していきます。

マーサ・メンセンディーク  
同志社大学社会学部社会福祉学科  
「社会問題実習」

榎本てる子  
関西学院大学神学部  
「キリスト教社会実習」

# スピリチュアルケアとしてのバイブルシェアリング (2015年から)

キリスト教の考え方に触れる機会を月に1回持ち、教会につながる人も。  
毎回15~20名の参加（ほとんどがノンクリスチャン）





ミッション(使命感)と  
パッション(情熱を持って苦難を乗り越え)を持って  
トランスフォーメーション(社会変革)

ご清聴ありがとうございました